

国語科学習指導案

竹原市立中通小学校
教諭 有松 浩司

- 1 日時 平成24年7月4日(水)
- 2 学年 第5学年(男子11名,女子8名,計19名)
- 3 単元名 自分の立場を明確にして話し合おう ～ ICTを使って大討論会 ～
- 4 単元について

○ 単元観

本単元は、以下に示す、小学校学習指導要領国語の内容を受けて設定したものである。

第5学年及び第6学年 「A話すこと・聞くこと」

(1)指導事項

ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報に関係付けること。

イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

本単元では、相手を説得させるために必要な情報を主体的に収集し、話の構成や提示資料を工夫して自分の考えを説明したり話し合ったりする力を育成することを主なねらいとしている。本単元は、言語活動例「イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。」を通して指導することにより、指導の効果を高めようとするものである。具体的には、教師が示したテーマに対して賛成と反対の立場から討論を行うことを通して、聞き手の状況を踏まえながら自分の考えを分かりやすく説明したり、計画的に話し合ったりすることができるようにする。

また、情報教育の観点から相手を説得するために必要な情報を自ら収集・判断・処理・表現・創造するといった情報活用の実践力を高めることもできる単元と考える。

○ 児童観

本単元で育成する能力に関わる事前アンケートを実施したところ、結果は以下のようになった。

【アンケートの結果】

- | | |
|--|--------|
| ・集めた情報が信用できるものかどうかを判断することができる。 | 10/19人 |
| ・コンピュータを使って、発表に必要なプレゼンテーションを作成できる。 | 14/19人 |
| ・みんなの前で発表するときは、聞く人が興味をもつように工夫することができる。 | 9/19人 |
| ・友達の発表に対して助言をしたり、自分の考えを述べたりすることができる。 | 12/19人 |

児童はこれまでの学習経験から、集めた情報をもとにプレゼンテーションなどを作って発表することができるようになってきている。しかし、集めた情報の信憑性を判断したり、聞き手の状況を踏まえて簡潔に分かりやすく自分の考えを説明したりする力は十分でないといえる。

○ 指導観

指導に当たっては、以下の点について留意し、指導を行うものとする。

- ・児童にとって、賛成派・反対派に分かれて行う形式の討論会は初めての経験である。そこで、単元の導入では、教師によるモデル討論会の映像を視聴させ、話し合い活動に対するイメージをもたせるようにする。
- ・相手を説得するためには、自分の主張の根拠となる情報(アンケート結果、グラフなど)を提示するとよいことを理解させた上で、どのような情報を収集すればよいか、事前に活動計画を立てさせる。
- ・インターネットや新聞等で集めた情報は必ずしも信用できるものではないことを、演習を通して理解させ、正しく判断しようという態度を育成する。
- ・討論会において、自分の立場を明確に示すことができるよう、パソコンを活用して作成した資料を、電子黒板で提示させる。その際、電子黒板は、教室前方に2台並べて置き、賛成派・反対派がそれぞれ立論、反論、最終弁論を行う際、必要に応じて活用できるようにする。
- ・討論会の後は、その様子を録画した映像を視聴させ、自分たちの話し合いについて振り返らせる。

5 単元の目標

- 自分の考えを分かりやすく説明しようとしたり、意欲的に討論会に参加しようとしたりする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 相手を説得するために必要な情報を主体的に収集し、話の構成や提示資料を工夫して自分の考えを説明したり計画的に話し合ったりすることができる。
【A 話すこと・聞くこと】
- 相手や場面に応じて、適切に敬語を使って話すことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・理由や具体例を挙げながら、自分の考えを分かりやすく説明しようとしている。 ・討論会に意欲的に参加しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を明確にして、理由や具体例となる情報を主体的に収集・判断し、話の構成や提示資料を工夫して自分の考えを説明したり計画的に話し合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や場面に応じて、適切に敬語を使って話している。

7 指導計画（全 11 時間）

次	小単元	主な学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法)	活用する ICT 機器・ デジタル教材
			関	話	言		
一 (2)	課題をもつ	○モデル討論会の様子の映像を視聴し、学習への意欲をもつ。	◎		○	◎討論会に意欲的に取り組もうとしている。 ○相手や場面に応じて、適切に敬語を使って話している。(ノート)	・電子黒板、パソコン ・動画(モデルとなる討論会の映像)
		○討論のテーマを選択し、どんな情報を、どうやって集めるか活動計画を立てる。	○			○テーマに対する自分の考えをはっきりさせ、討論の準備に意欲的に取り組もうとしている。(発言・ノート)	・電子黒板、パソコン
二 (3)	情報を集める	○教師の提示した情報の信憑性について考える。	○			○討論会に意欲的に取り組もうとしている。(発言・ノート)	・電子黒板、パソコン ・自作教材「この情報信じてもいいのかな？」
		○自分にとって必要な情報を様々な方法で収集する。 (図書資料や百科事典、インターネット、アンケート、新聞、ニュースなど) ○集めた情報を、発信源や発信時期等を基に、信頼できるものか判断し、選択する。 ○集めた情報を整理し、自分の考えを説明する文章(立論)を考える。	○	◎		○討論会に意欲的に取り組もうとしている。 ◎討論会に必要な情報を積極的に収集・判断しようとしている。(行動観察・ノート)	・パソコン ・インターネット ・新聞データベース版 ・デジタルカメラ ・デジタルビデオカメラ
三 (2)	情報をまとめる	○自分の考えを説明するための資料を作成する。 (グラフや表、プレゼンテーション資料の作成) ○実際に資料を提示しながら話したり、相手の意見を予測して反論したりする練習をグループごとに行う。	○	◎		○理由や具体例を挙げながら、自分の考えを分かりやすく説明しようとしている。 ◎自分の立場を明確にした上で、適切な理由や具体例を挙げながら自分の考えを述べている。(行動観察・ノート)	・パソコン ・表計算ソフト ・プレゼンテーション作成ソフト

《テーマ① 小学生に携帯電話は必要ない。賛成？反対？》

【それぞれの主張（立論）】

	理由	根拠となる情報・資料
賛成派	携帯が気になって勉強に集中できない。	日本の中高生が携帯電話に触れている時間とその害
	トラブルが多い。	携帯電話が原因で起きている事件の種類と件数
	お金がかかる。	携帯電話使用でかかる料金
反対派	自分でいろいろなことを調べることができる。	様々なアプリの紹介
	不審者から身を守る。	登下校中に不審者に遭遇した事件の件数
	家族といつても連絡できる。	携帯電話があると安心と答えた親の割合

【予想される反論】

- ・携帯電話の使い方を正しく身に付ければ、賛成派が言ったような問題は起きないと思う。
- ・「携帯電話があると安心」と答えた親が多いからといって、それが「小学生に携帯電話が必要」ということにはならない。

《テーマ② 小学生はゲームをすべきでない。賛成？反対？》

【それぞれの主張（立論）】

	理由	根拠となる情報・資料
賛成派	勉強に集中できない。	ゲームをする児童と学力の関係を表したグラフ
	目が悪くなる。	ゲームをする児童と視力の関係を表したグラフ
	時間が守れなくなる。（寝るのが遅くなる）	ゲームをする人の睡眠時間
反対派	「脳トレ」などのソフトは勉強になる。	脳トレのゲームの紹介
	wiiなどは家族団らんになる。	家族でゲームをよくする人の意見（インタビュー）
	友達が増える。	友達とゲームをよくする人の意見（インタビュー）

【予想される反論】

- ・きちんと時間を決めてゲームをしている人もいる。ゲームがあるから時間が守れなくなるというのはおかしい。
- ・反対派の「友達が増える」という意見はおかしい。ゲームがなくても友達はできるものだと思う。

《テーマ③ 小学校でも自転車通学を認めるべきである。賛成？反対？》

【それぞれの主張（立論）】

	理由	根拠となる情報・資料
賛成派	不審者に対応できる。	登下校中に不審者に遭遇した事件の件数
	時間の節約になる。	通学にかかる時間（アンケート）
	自転車通学希望者が多い	友達へのアンケート
反対派	事故になる。	県内、市内の交通事故の発生件数
	停める場所がなく、遊び場が減る。	運動場の写真
	体力がつかない。	日本の子ども体力の移り変わり（グラフ）

【予想される反論】

- ・自転車通学をしたい人が多いというだけで、認めるべきだという賛成派の考え方はおかしい。
- ・体力と自転車通学は関係ない。学校でしっかり運動をすればよい。

3 本時の学習を振り返り、自分の考えを分かりやすく説明するにはどのような話し方をすればよいか、討論会を計画的に進めるにはどのように意見を整理すればよいかについて、学んだことをワークシートにまとめる。

ICT活用のポイント②

自分の考えを説明する際、事前に作成したプレゼンテーションを提示させる。また、自分の考えの根拠を明確に示す必要が生じた場合、画面に書き込みをしながら説明してもよいことを伝える。

ICT活用のポイント③

相手の意見に反論する場合は、必要に応じて相手のプレゼンテーションの再提示を求めさせる。

○情報を正しく判断しようとする態度を育成するために、提示する資料等が適切な根拠となっているかを考えさせる。

○感想や意見を交流する際は、内容だけでなく、話し方や資料にも着目させ、どのような点が聞き手を説得するのに効果的であったかを考えさせる。

○指導者は最後に賛成派・反対派の良かった点を中心に評価する。特に、自分の立場を明確にすることや適切な理由や具体例（情報）を示すことが、意見を述べる上で大切であることを理解させる。

☆評価の観点及び評価方法

自分の立場を明確にした上で、適切な理由や具体例を挙げながら自分の考えを述べたり、互いの考えの共通点や相違点を整理したりしながら進行に沿って話し合いを進めることができたか。（発言・ワークシート）